1-2　婦人科疾患の諸症状（特に疼痛）に対する、ピクノジェノールの臨床予備治験

小濱　隆文

恵寿総合病院　産院院長

ほとんどの女性は、しばしば下腹部や骨盤の痛みを経験する。これらの痛みの多くは、生殖器およびその周辺臓器による生理的な現象であるが、時として医学的治療を要するような疾患が背後ある場合も認められる。婦人科外来に受診される女性の多くはこのような痛みを愁訴としており、婦人科医に相談されない女性も含めると、このような痛みに日々繰り返し悩まされている女性は相当数に達するものと思われる。これらの患者の多くの場合は月経困難症、慢性的な下腹部及び骨盤の痛みを訴えており、婦人科的には、子宮内膜症あるいは子宮及び周辺臓器の炎症と診断されるケースが極めて多く認められる。 今回我々は、これらの患者に対しピクノジェノールを投与し、臨床過程を観察し、婦人科疾患の諸症状、特に疼痛に対する効果を調べた。

（方法） ａ．子宮内膜症、ｂ．重度の月経痛（子宮内膜症による症状を除く）及びｃ．婦人科的手術後の慢性的下腹部痛及び骨盤痛（子宮内膜症による症状を除く）の疾患および症状を有する３９人の患者に対しピクノジェノールを投与した。これらの患者に対し、婦人科的双合診、画像診断（超音波、ＣＴスキャン及びＭＲＩ）、腹腔鏡診断および血清学的診断にもとづき、婦人科的に診断を行った。ピクノジェノールは、（Ａ）月経７日前から１４日間、３０ｍｇ／日投与、（Ｂ）継続して１ヶ月間、３０ｍｇ／日投与及び（Ｃ）一時的に６０ｍｇ／日投与、のいずれかの方法で投与した。また、ピクノジェノール製品の成分内容は、１ソフトカプセルあたり、ピクノジェノール；１５ｍｇ、オリーブ油；２０５ｍｇ、及び乳化剤；３０ｍｇのものを使用した。

[結果] 各グループにおいて、重度の月経痛、下腹部痛および子宮・附属器の抵抗性・圧痛の改善が、表に示すごとくに認められた。また副作用として、月経周期の延長、月経期間の延長)および全身性発疹が各一例ずつ認められた。

[結論]1) 子宮内膜症症例に対してのピクノジェノール投与により、重度の月経痛及び骨盤痛が軽減した。また、内膜症の治療効果の指標となる、子宮・附属器の可動性が改善された症例も、若干例ではあるが、認められた。2) 子宮内膜症以外の原因による、月経痛及び骨盤痛もピクノジェノール投与により軽減された。

表; a. b 及び c グループの患者に対してのピクノジェノール投与結果（改善率）

	クランプ	下腹痛	腰痛	圧痛
a	11/15(77%)	8/10(80%)	5/7(71%)	3/4(75%)
b	8/11 (73%)	1/1 (100%)		
c	2/3(66%)	8/9(89%)		3/3 (100%)